

専門基礎分野

専門基礎分野は、専門分野を支持し、科学的思考に基づいた根拠ある看護が提供できるように、人体の構造と機能を生活者の視点から理解する科目、健康と疾病および治療について理解する科目、そして健康支援のための責務と制度に関する科目として位置付けて、22 科目 22 単位で構成している。

人体の構造と機能 P2～	・・・解剖生理学 I・II・III・IV	生化学
疾病の成り立ちと回復の促進 P11～	・・・治療論 病理学	
	疾病と治療 I・II・III・IV	
	微生物と感染症 薬理学 栄養学	
	リハビリテーション論	
	看護につながる疾病論	
健康支援と社会保障制度 P30～	・・・医療概論 公衆衛生学	
	健康支援と保健活動 社会福祉	
	関係法規 看護と法	

看護につながる疾病論は、臨床判断の基盤となる演習を強化する学習内容として、人体と構造と機能、疾病と治療で学んだ知識を活用して患者の健康問題を的確に捉える方法を学び、基礎看護学へ繋ぐ科目として設定している。

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	濟 昭道
科目名	解剖生理学 I	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
事前学習内容 授業時に講師に指示された内容に取り組む。					
科目全体のねらい・授業目標 人間の身体の基礎構造とその成り立ちを理解するための基礎知識を学ぶ。そして、生命活動を営むために重要な役割を果たしている細胞が正常に機能するための内部環境の恒常性（ホメオスタシス）を維持するためのはたらきを理解するための基礎知識を身につける。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	人体の構造と機能の基礎知識が理解できる 構造からみた人体 人体のさまざまな器官：植物機能のはたらき		講義	テキスト1	
2	生命を維持し活動を行うための人体の機能、生体防御機構のしくみが理解できる 人体のさまざまな器官：動物機能のはたらき 素材からみた人体 内部環境の恒常性 生命維持と生活行動		講義	テキスト1・2	
3	恒常性維持のための物質の流通について理解できる 血液（赤血球）の形成と機能が理解できる 流通の媒体—血液		講義	テキスト1・2	
4	血液（白血球・血小板）の形成と機能が理解できる 血液（血漿・凝固系、血液型）の機能が理解できる 流通の媒体—血液		講義	テキスト1・2	
5	循環器系（大小循環）の構成が理解できる 循環器（心臓）の構造と機能が理解できる 流通の原動力		講義	テキスト1・2	
6	循環器（動脈・静脈）の構造と機能が理解できる 流通路		講義	テキスト1・2	
7	血液循環（血圧・血液循環）の調節のしくみが理解できる 流通路 流通の原動力		講義	テキスト1・2	

8	血液循環（血圧・血流量）の調節のしくみが理解できる 循環器（リンパ）の構造と機能が理解できる 流通路 流通の原動力	講義	テキスト1・2
9	恒常性維持のための調節機構について理解できる 自律神経・内分泌系の構造と機能が理解できる 神経性調節	講義	テキスト1・2
10	内分泌系（下垂体）の構造と機能が理解できる 液性調節	講義	テキスト1・2
11	内分泌系（甲状腺・副甲状腺・膵臓）の構造と機能が理解できる 液性調節	講義	テキスト1・2
12	内分泌系（副腎・性腺）の構造と機能が理解できる 液性調節	講義	テキスト1・2
13	ホルモンによる調節の実際（ストレスとホルモン）が理解できる ストレスと恒常性維持	講義	テキスト1・2
14	まとめ 体の構造と機能を日常生活行動の視点から（形態機能学として）理解することができる	講義	テキスト1・2
15	終講試験		
受講上の留意点 状況によって小テストを取り入れます。 看護形態機能学（テキスト2）と合わせて学習してください。また、動画（テキスト3）を視聴し立体的にイメージしてください。 学習方法として、インプットした内容を繰り返しアウトプットすることを意識してください。（口にする。誰かに話す。友達同士で質問と回答を繰り返す。白紙に書いてみる。）「教科書を読む→問題を解く→忘れていたところを復習」を繰り返しましょう。			評価方法 筆記試験
使用するテキスト 1. 解剖生理学（医学書院 eテキスト） 2. 看護形態機能学（医書 jp） 3. 生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖生理【第3版】 医学映像教育センター			
参考文献 循環器 血液・造血器 内分泌・代謝 脳・中枢神経（医学書院 eテキスト） 看護につながる解剖生理学（医書 jp） からだの地図帳 講談社			

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	濟 昭道 富 勝治
科目名	解剖生理学Ⅱ	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
事前学習内容					
授業時に講師に指示された内容に取り組む。					
科目全体のねらい・授業目標					
<p>「食べる」行動の中心となる消化器系、体内のエネルギー生産「息をする」について呼吸器系、身体にとって不要なものを捨てる「出す」について腎泌尿器系、のしくみと働きについて学ぶ。</p> <p>日常生活の中で生きていくために不可欠な営みに関する身体のしくみと働きを理解するための基礎知識を身につける。</p>					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	生活行動「食べる」に必要なとなる身体の構造と機能が理解できる 消化器(口・咽頭・食道)の構造と機能が理解できる 咀嚼し味わう 飲み込む(嚥下)		講義	担当：濟1 テキスト1・2	
2	腹部消化管(胃・小腸)の構造と機能が理解できる 消化と吸収		講義	担当：濟2 テキスト1・2	
3	腹部消化管(大腸)の構造と機能が理解できる 消化と吸収		講義	担当：濟3 テキスト1・2	
4	消化器(肝臓、膵臓)の構造と機能が理解できる 消化と吸収		講義	担当：濟4 テキスト1・2	
5	消化器(腹膜)の構造と機能が理解できる 消化と吸収		講義	担当：濟5 テキスト1・2	
6	「息をする」に必要な身体の構造と機能が理解できる 呼吸器(上気道・下気道・肺)の構造と機能が理解できる 息を吸う・息を吐く		講義	担当：富1 教科書1・2	
7	呼吸のしくみ(ガス交換・呼吸運動・呼吸気量)が理解できる 息を吸う・息を吐く		講義	担当：富2 教科書1・2	
8	呼吸のしくみ(ガスの運搬、酸素解離曲線)が理解できる ガス交換		講義	担当：富3 教科書1・2	

9	呼吸のしくみ（肺の循環、換気血流比不均等）が理解できる 呼吸運動の調節（神経・中枢）が理解できる ガス交換 息を吸う・息を吐く	講義	担当：富4 教科書1・2
10	生活行動「トイレに行く」に必要な身体の構造と機能が理解できる 腎臓・糸球体の構造と機能が理解できる 排尿	講義	担当：済6 テキスト1・2
11	尿細管の構造と機能が理解できる 傍糸球体装置の構造と機能、レニン-アンギオテンシン-アルドステロン系が理解できる 排尿	講義	担当：済7 テキスト1・2
12	排尿路の構造と尿のしくみが理解できる 排尿	講義	担当：済8 テキスト1・2
13	体液の調節と酸塩基平衡が理解できる 排尿	講義	担当：済9 テキスト1・2
14	まとめ 体の構造と機能を日常生活行動の視点から（形態機能学として）理解することができる	講義	担当：済10 テキスト1・2
15	終講試験		
受講上の留意点 状況によって小テストを取り入れます。 看護形態機能学（テキスト2）と合わせて学習してください。また、動画（テキスト3）を視聴し立体的にイメージしてください。 学習方法として、インプットした内容を繰り返しアウトプットすることを意識してください。（口にする。誰かに話す。友達同士で質問と回答を繰り返す。白紙に書いてみる。）「教科書を読む→問題を解く→忘れていたところを復習」を繰り返しましょう。		評価方法 筆記試験	
使用するテキスト 1. 解剖生理学（医学書院 eテキスト） 2. 看護形態機能学（医書 jp） 3. 生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖生理【第3版】 医学映像教育センター			
参考文献 呼吸器 循環器 消化器 腎・泌尿器（医学書院 eテキスト） 看護につながる解剖生理学（医書 jp） からだの地図帳 講談社			

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	濟 昭道 松本 知子
科目名	解剖生理学Ⅲ	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
事前学習内容 授業時に講師に指示された内容に取り組む。					
科目全体のねらい・授業目標 日常生活での何気ない動作についても、たくさんの骨、関節、筋肉が連動している。そんな随意的な行動「動く」について運動器系のしくみと働きについて学ぶ。また、新たな生命を受胎して出産するまでの体内における準備について生殖器系のしくみと働きについて学ぶ。そして身体の成長と老化のメカニズムについて学ぶ。日常生活行動における身体のしくみを理解するための基礎知識を身につける。					
DPとの 関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	生活行動「動く」に必要な身体の構造と機能が理解できる 運動器(骨格)の構造と機能が理解できる 姿勢 神経から筋への指令と筋の収縮		講義	担当: 濟1 テキスト1・2	
2	運動器(骨・関節・筋肉)の構造と機能が理解できる 姿勢 神経から筋への指令と筋の収縮		講義	担当: 濟2 テキスト1・2	
3	体幹の骨格・関節・筋について理解できる 骨格・骨格筋・関節		講義	担当: 濟3 テキスト1・2	
4	上肢の骨格・関節・筋について理解できる 骨格・骨格筋・関節		講義	担当: 濟4 テキスト1・2	
5	下肢の骨格・関節・筋について理解できる 骨格・骨格筋・関節		講義	担当: 濟5 テキスト1・2	
6	頭頸部の骨格・関節・筋について理解できる 骨格・骨格筋・関節		講義	担当: 濟6 テキスト1・2	
7	筋の収縮について理解できる 神経から筋への指令と筋の収縮 骨格・骨格筋・関節 意図的でない運動—反射 意図的な運動—随意運動		講義	担当: 濟7 テキスト1・2	
8	運動と代謝について理解できる 姿勢 日常生活での基本的動き		講義	担当: 濟8 テキスト1・2	

9	「こどもを生む」に必要な身体の構造と機能が理解できる 女性生殖器の構造と機能が理解できる 男と女 遺伝子の組み換え 生殖を支えるホルモン	講義	担当：松本 1 テキスト 1・2
10	女性の性機能とライフステージ、性ホルモンの機能と調節、月経周期について理解できる 妊娠が成立するまでの過程が理解できる 性交と受精 赤ちゃん 生殖を支えるホルモン	講義	担当：松本 2 テキスト 1・2
11	妊娠から出産するまでの過程と身体のしくみが理解できる 赤ちゃん 出産	講義	担当：松本 3 テキスト 1・2
12	成長と老化のしくみについて理解できる 小児期の成長について理解できる	講義	担当：濟 9 テキスト 1
13	老化について理解できる	講義	担当：濟 10 テキスト 1
14	運動器系の復習 体の構造と機能を日常生活行動の視点から（形態機能学として）理解することができる	講義	担当：濟 11 テキスト 1・2
15	終講試験		
受講上の留意点 状況によって小テストを取り入れます。 看護形態機能学（テキスト 2）と合わせて学習してください。また、動画（テキスト 3）を視聴し立体的にイメージしてください。 学習方法として、インプットした内容を繰り返しアウトプットすることを意識してください。（口にする。誰かに話す。友達同士で質問と回答を繰り返す。白紙に書いてみる。）「教科書を読む→問題を解く→忘れていたところを復習」を繰り返しましょう。			評価方法 筆記試験
使用するテキスト 1. 解剖生理学（医学書院 eテキスト） 2. 看護形態機能学（医書 jp） 3. 生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖生理【第 3 版】 医学映像教育センター			
参考文献 運動器 腎・泌尿器 女性生殖器（医学書院 eテキスト） 看護につながる解剖生理学（医書 jp） からだの地図帳 講談社			

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	濟 昭道
科目名	解剖生理学Ⅳ	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
事前学習内容 授業時に講師に指示された内容に取り組む。					
科目全体のねらい・授業目標 生活リズムの安定に欠かせない休息行動「眠る」と、清潔・休息行動である「お風呂に入る」について、神経系のしくみと働きについて学ぶ。同時に、汚れや温度を感じる皮膚や眼、耳（感覚器系）のしくみと働き、感覚器から受け取った情報を処理している脳のしくみと働きについても学ぶ。日常生活行動そのもののしくみを理解するための基礎知識を身につける。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	生活行動「話す・聞く」「におう・味わう」「触れる・痛む」「眠る」に必要な身体の構造と機能について理解できる 神経系の構造と機能（ニューロン・シナプス・神経の構造）が理解できる 神経性調節		講義	テキスト1・2	
2	脊髄と脳の構造と機能が理解できる 神経性調節		講義	テキスト1・2	
3	脳の構造と機能が理解できる 神経性調節		講義	テキスト1・2	
4	脊髄神経と脳神経の構造と機能が理解できる 神経性調節		講義	テキスト1・2	
5	眼の構造と機能が理解できる 神経性調節		講義	テキスト1・2	
6	耳の構造と機能が理解できる 味覚器と嗅覚器の構造と特徴が理解できる 神経性調節 聞く 咀嚼し味わう		講義	テキスト1・2	
7	痛みの分類・発生機序が理解できる 脳の統合機能（脳波・睡眠）について理解できる 神経性調節 眠り		講義	テキスト1・2	
8	脳の統合機能（概日リズム・記憶・本能行動・情動・中枢神経系の障害）について理解できる 神経性調節 からだのリズム		講義	テキスト1・2	

9	生活行動「お風呂に入る」に必要な身体の構造と機能について理解できる 皮膚の構造と機能が理解できる 皮膚と付属物	講義	テキスト1・2
10	生体の防御機能（非特異的防御機構）について理解できる 皮膚と粘膜	講義	テキスト1・2
11	生体の防御機能（特異的防御機構—免疫）について理解できる 流通の媒体—血液	講義	テキスト1・2
12	生体の防御機能（関連臓器）について理解できる 流通の媒体—血液	講義	テキスト1・2
13	体温とその調節について理解できる 温まる	講義	テキスト1・2
14	まとめ 体の構造と機能を日常生活行動の視点から（形態機能学として）理解することができる	講義	テキスト1・2
15	終講試験		
受講上の留意点 状況によって小テストを取り入れます。 看護形態機能学（テキスト2）と合わせて学習してください。また、動画（テキスト3）を視聴し立体的にイメージしてください。 学習方法として、インプットした内容を繰り返しアウトプットすることを意識してください。（口にする。誰かに話す。友達同士で質問と回答を繰り返す。白紙に書いてみる。）「教科書を読む→問題を解く→忘れていたところを復習」を繰り返しましょう。			評価方法 筆記試験
使用するテキスト 1. 解剖生理学（医学書院 eテキスト） 2. 看護形態機能学（医書 jp） 3. 生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖生理【第3版】 医学映像教育センター			
参考文献 脳・神経 アレルギー—膠原病感染症 皮膚（医学書院 eテキスト） 看護につながる解剖生理学（医書 jp） からだの地図帳 講談社			

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	非常勤講師 杉垣ひとみ
科目名	生化学	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容 授業時に講師に指示された内容に取り組む。					
科目全体のねらい・授業目標 身体がどのような成分から成り立ち、どのように作られ、調整されて健康を維持しているのかを、物質代謝・エネルギー代謝を通して理解することで、細胞内での物質の変化だけではなく、生命活動に必要な栄養素とその吸収臓器あるいは臓器間の関係、病態と代謝のつながりを理解することをねらいとする。					
DPとの 関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	生命維持に必要な栄養素(細胞・糖質・脂質)の構造と性質が理解できる		講義	担当: 非常勤講師1 テキスト1	
2	生命維持に必要な栄養素(アミノ酸と蛋白質・核酸とヌクレオチド・ビタミン)の構造と性質が理解できる		講義	担当: 非常勤講師2 テキスト1	
3	身体の中の代謝の流れを作る酵素の働きが理解できる		講義	担当: 非常勤講師1 テキスト1	
4	生物体における様々な代謝が理解できる		講義	担当: 非常勤講師2 テキスト1	
5	臓器間の代謝のつながりが理解できる		講義	担当: 非常勤講師3 テキスト1	
6	生体内の遺伝情報とその変化が身体に及ぼす影響が理解できる		講義	担当: 非常勤講師4 テキスト1	
7	看護の対象の生活と代謝の関係が理解できる		講義	担当: 杉垣1 テキスト1	
8	終講試験				
受講上の留意点 生化学は、生理学や病態学を理解する上で重要な地位を占めます。教科書や資料を活用して予習・復習に取り組み、ただ暗記するのではなく理解するように努めましょう。				評価方法 筆記試験	
使用するテキスト 1. 臨床生化学(医書jp)					
参考文献 病態生理学 生化学 薬理学 栄養学(医学書院 eテキスト) 看護形態機能学(医書jp)					

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	1年次	担当講師 西田 勝浩 富 勝治 倉橋 卓男 小山 司	
科目名	治療論	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容 授業前や授業時に指示された内容に取り組む					
科目全体のねらい・授業目標 本科目は、様々な疾病の治療に共通する治療技術を学び、以後に続く「疾病と治療論」の理解を深め、救急救命時の看護、周手術期の看護、放射線療法時の看護に発展することをねらう。					
DP との関連	DP1. 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2. 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3. 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を健康状態やその変化に対して実践することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	外科的治療の特色と変遷が理解できる (特色、近代の外科的治療の変遷、低侵襲治療・臓器移植、外科的治療と看護の特徴、内視鏡的検査と治療) 手術療法の適応理解できる (手術療法の適応と分類、外傷治療と創傷管理)			講義	担当：西田 1 テキスト 1
2	外科的治療と手術療法における身体侵襲が理解できる (手術侵襲と生体反応、生体調節機構) 手術療法に伴う合併症とその対応が理解できる (発生機序、起こしやすい術後合併症、予防と対応)			講義	担当：西田 2 テキスト 1
3	麻酔の種類と生体の反応が理解できる(麻酔の種類：全身麻酔と局所麻酔と生体反応) 麻酔前・中・後の管理が理解できる (術前・術後・術後の管理、麻酔の合併症、麻酔法を支える管理)			講義	担当：富 1 テキスト 1
4	救急処置法の原則と実際が理解できる (外科的一時処置、BLSとACLS、救急処置の対象、心肺機能停止(CPA)、外傷とショック：緊急を要する外傷性疾患・ショックの分類と主な原因)			講義	担当：倉橋 1
5	救急処置法の原則と実際が理解できる (蘇生訓練：気道の確保、人工呼吸、胸骨圧迫、直流除細動器、自動体外式除細動器(AED)、止血法、体温管理、包帯法、応急処置、輸血)			演習	担当：倉橋 2
6	放射線による診断と治療の原理と特徴が理解できる (画像診断の種類、画像診断における看護の役割)			講義	担当：小山 1 テキスト 2
7	放射線治療時の有害反応が理解できる (放射線治療の特徴、目的、適応、有害反応)			講義	担当：小山 2 テキスト 2
8	終講試験				
受講上の留意点 疾病と治療を結び付けて確実な知識の定着を目指しましょう。				評価方法 筆記試験	
使用するテキスト 1. 臨床外科看護総論 2. 臨床放射線医学(医学書院 e-テキスト)					
参考文献 病理学、消化器、基礎看護技術Ⅱ、救急看護学、根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院 e-テキスト)					

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	済 昭道
科目名	病理学	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容					
授業前や授業時に指示された内容に取り組んでおきましょう					
科目全体のねらい・授業目標					
人の病気の成り立ちと回復過程について学ぶ入口である。適切な看護を行うために、疾患に対する知識が必要である。細胞レベルで病的状態を理解し、検査方法や検査結果の読みとり方を知り、診断に至る過程、さまざまな治療法の選択がある。疾患毎に、あるいは同じ疾患でも治療の目的や方法は異なる場合が多い。治療に伴う看護を考える手立てとして以上を理解することが重要である。さらに、病気の発生傾向や発生要因を知ることで予防的な看護につながっていく。					
DPとの関連	DP1. 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2. 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3. 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を健康状態やその変化に対して実践することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	正常と病気の状態が理解できる 生理と病態生理、疾病を引き起こす要因(生活習慣、公害病、医原病、職業病)、正常への回復に影響する要因と回復過程、疾病の診断と治療(症状・徴候・症候群、器質的変化と機能的変化、診断過程、一般検査・特殊検査、治療と選択、回復力と後遺症、予後と転帰)			講義	テキスト1
2	局所性の循環障害と全身性の循環障害が理解できる 局所性、全身性、リンパの循環障害(充血とうっ血と虚血、血栓症と塞栓症、出血と梗塞、ショックとDIC、浮腫(水腫)と浸出液・濾出液)				
3	組織・細胞の障害が理解できる 細胞の損傷と適応(変性・萎縮・肥大・過形成)、細胞の死(壊死(ネクロシス)・アポトーシス)、臓器の変形・圧迫(圧排・ヘルニア)				
4	炎症と免疫が理解できる 炎症(5兆候と原因と経過)、創傷治癒(損傷から修復、再生と1次治癒・2次治癒)、炎症性疾患(炎症の治療、化膿性・出血性・壊疽性・増殖性・肉芽性炎、易感染症と日和見感染症)、免疫(先天性免疫不全症候群・後天性免疫不全症候群・エイズ、移植と免疫)				
5	腫瘍の発生病理が理解できる 腫瘍(悪性度と組織発生の分類、前がん病変と境界病変、発生機序・原因)悪性腫瘍の転移、進行、診断、治療が理解できる 腫瘍の広がり(リンパ行性・血行性転移・播種、TNN分類、病期分類)腫瘍が宿主に及ぼす影響(周囲への圧迫、全身への影響)腫瘍の診断と治療(腫瘍マーカー、外科手術、放射線照射、化学療法、ホルモン療法、新しいがん治療、腫瘍の統計)				

6	先天異常・遺伝子異常、診断、治療が理解できる (遺伝子異常症、染色体異常症、出生前感染症・薬剤・アルコール・放射線による胎児の障害、診断方法：出生前診断、新生児マススクリーニング、DNA 診断、遺伝子治療)		
7	老化と死が理解できる 細胞の老化、個体の死(死の3兆候、死亡判定、脳死、尊厳死)		
8	終講試験		
受講上の留意点 インプットした内容を繰り返しアウトプットする 口にする、誰かに話す。質問と回答を繰り返す。白紙に書く 「教科書を読む→問題を解く→忘れていたところを復習」を繰り返す 以上の学習方法に確実に取り組みましょう		評価方法 筆記試験	
使用するテキスト 1. 病理学 (医学書院 e-テキスト)			
参考文献 解剖生理学、病態生理学、臨床外科看護総論、呼吸器 (医学書院 e-テキスト)			

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	濟 昭道・倉堀 純 黒田 達実
科目名	疾病と治療 I	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
事前学習内容 授業時に講師に指示された内容にとりくむ					
科目全体のねらい・授業目標 「疾病と治療」を学ぶ入口として呼吸器疾患から学ぶ。呼吸が苦しいことがどのような病態生理から起きているのか理解し、症状・検査・治療に関する看護につなぐための知識を学ぶ。症状出現から疾病の回復まで、看護が連続して行われるために必要な循環器系、血液・造血器系、腎・泌尿器系にかかわる疾病と治療について学ぶ。					
DPとの 関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関する看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	呼吸器系の疾病と治療が理解できる 構造と機能		講義	担当：倉堀 1 テキスト1、2、3 資料	
2	呼吸器系の疾病と治療が理解できる 疾患の症状と病態生理			担当：倉堀 2 テキスト1、2、3 資料	
3	呼吸器系の疾病と治療が理解できる 診察、検査、検査結果と診断をつけるプロセス			担当：倉堀 3 テキスト1、2、3 資料	
4	呼吸器系の疾病と治療が理解できる 疾患の理解：病態生理・治療と管理			担当：倉堀 4 テキスト1、2、3 資料	
5	循環器系の疾病と治療が理解できる 構造と機能		講義	担当：黒田 1 テキスト1、2、4 資料	
6	循環器系の疾病と治療が理解できる 疾患の症状と病態生理			担当：黒田 2 テキスト1、2、4 資料	
7	循環器系の疾病と治療が理解できる 診察、検査、検査結果と診断をつけるプロセス			担当：黒田 3 テキスト1、2、4 資料	
8	循環器系の疾病と治療が理解できる 疾患の理解：病態生理・治療と管理			担当：黒田 4 テキスト1、2、4 資料	
9	血液・造血器系の疾病と治療が理解できる 血液の機能と造血のしくとみ、 症状・身体所見とその病態生理		講義	担当：黒田 1 テキスト1、2、5 資料	
10	血液・造血器系の疾病と治療が理解できる 診察、検査、検査結果と診断をつけるプロセス			担当：黒田 2 テキスト1、2、5 資料	
11	血液・造血器系の疾病と治療が理解できる 疾患の理解：病態生理・治療と管理			担当：黒田 3 テキスト1、2、5 資料	
12	腎・泌尿器系の疾病と治療が理解できる		講義	担当：濟 1	

シラバス 専門基礎分野 疾病と治療 I (2)

	構造と機能、症状とその病態生理		テキスト1、2、6 資料
13	腎・泌尿器系の疾病と治療が理解できる 診察、検査、検査結果と診断をつけるプロセス		担当：済2 テキスト1、2、6 資料
14	腎・泌尿器系の疾病と治療が理解できる 疾患の理解：病態生理・治療と管理		担当：済3 テキスト1、2、6 資料
15	終講試験	筆記	
受講上の留意点 授業を受けるにあたり、主体的に予習・復習に努めましょう 試験配点表で各担当講師の配点を確認しましょう。		評価方法 筆記試験	
使用するテキスト 1. 病態生理学 2. 臨床外科看護総論 3. 呼吸器 4. 循環器 5. 血液・造血器 6. 腎・泌尿器 (医学書院 eテキスト)			
参考文献 解剖生理学、病理学 (医学書院 eテキスト) からだの地図帳 講談社 病気の地図帳 講談社			

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	渡辺 聡・草壁明日香 非常勤講師
科目名	疾病と治療Ⅱ	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
事前学習内容 授業時に講師に指示された内容にとりくむ					
科目全体のねらい・授業目標 人体は食物摂取・消化吸収・栄養素の流通と生体物質の化学変化と物質代謝・エネルギー代謝によって恒常性が維持されている。本科目では栄養の摂取と代謝に関わる消化器系、食物を口から摂取する歯・口腔、恒常性を維持する内分泌・代謝系の疾病を生じたら身体にどのような影響があるのか、症状出現から疾病の回復まで看護が連続して行われるために必要な食物摂取・消化・吸収・内分泌・代謝にかかわる疾病と治療について学ぶ。					
DPとの 関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関する看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	消化器系の疾病と治療が理解できる 構造と機能			講義	担当：非常勤講師 1 テキスト1、2 資料
2	消化器系の疾病と治療が理解できる 症状とその病態生理				担当：非常勤講師 2 テキスト1、2 資料
3	消化器系の疾病と治療が理解できる 診察と診断の流れ、検査と治療				担当：非常勤講師 3 テキスト1、2 資料
4	消化器系の疾病と治療が理解できる 上部消化管疾患の症状と病態、検査、処置、治療				担当：非常勤講師 4 テキスト1、2 資料
5	消化器系の疾病と治療が理解できる 下部消化管疾患の症状と病態、検査、処置、治療				担当：非常勤講師 5 テキスト1、2 資料
6	消化器系の疾病と治療が理解できる 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の症状と病態、検査、処置、治療				担当：非常勤講師 6 テキスト1、2 資料
7	消化器系の疾病と治療が理解できる 肝臓の疾患の症状と病態、検査、処置、治療				担当：非常勤講師 7 テキスト1、2 資料
8	消化器系の疾病と治療が理解できる 胆道疾患の症状と病態、検査、処置、治療 膵臓疾患の症状と病態、検査、処置、治療				担当：非常勤講師 8 テキスト1、2 資料
9	歯科・口腔の疾病と治療が理解できる 構造と機能、診察と診断の流れ、症状とその病態生理			講義	担当：渡辺 1 テキスト1、3 資料
10	歯科・口腔の疾病と治療が理解できる 検査と治療・処置、疾患の理解				担当：渡辺 2 テキスト1、3 資料
11	内分泌・代謝の疾病と治療が理解できる 構造と機能			講義	担当：草壁 1 テキスト1、4 資料
12	内分泌・代謝の疾病と治療が理解できる				担当：草壁 2

	症状とその病態生理と検査		テキスト1、4 資料
13	内分泌・代謝の疾病と治療が理解できる 疾患の理解：代謝疾患		担当：草壁3 テキスト1、4 資料
14	内分泌・代謝の疾病と治療が理解できる 疾患の理解：下垂体・副腎・甲状腺・副甲状腺の疾患、 体液調節の疾患		担当：草壁4 テキスト1、4 資料
15	終講試験	筆記	
受講上の留意点 授業を受けるにあたり、主体的に予習・復習に努めましょう 試験配点表で各担当講師の配点を確認しましょう。		評価方法 筆記試験	
使用するテキスト 1. 病態生理学 2. 消化器 3. 歯・口腔 4. 内分泌・代謝（医学書院 eテキスト）			
参考文献 解剖生理学、病理学（医学書院 eテキスト） からだの地図帳 講談社 病気の地図帳 講談社			

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	西村正樹・塩見亮司 元津康彦
科目名	疾病と治療Ⅲ	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
事前学習内容 授業時に講師に指示された内容にとりくむ					
科目全体のねらい・授業目標 刺激情報が求心路を経て中枢で処理され、遠心路によって運動器系に伝えられたら、人は動くことができる。情報処理をする脳で、情報を伝える神経で、体を動かす運動器で障害が生じたら、全身にどのような影響が生じるのか。症状出現から疾病の回復まで看護が連続して行われるために必要な、神経機能、運動機能にかかわる疾病と診断・治療について学ぶ。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関する看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	神経機能 神経障害で起こる主な症状と病態生理が理解できる 構造と機能、症状とその病態生理		講義	担当：塩見 1 テキスト 1、2 資料	
2	神経機能 神経障害で起こる主な症状と病態生理が理解できる 検査・診断と治療・処置、脳神経系疾患の内科的治療方法			担当：塩見 2 テキスト 1、2 資料	
3	神経機能 神経障害で起こる主な症状と病態生理が理解できる 脳神経外科：中枢神経系の疾患の主な症状			担当：塩見 3 テキスト 1、2 資料	
4	神経機能 神経障害で起こる主な症状と病態生理が理解できる 脳神経外科：中枢神経系の疾患の病態生理			担当：塩見 4 テキスト 1、2 資料	
5	神経機能 神経障害で起こる主な症状と病態生理が理解できる 脳神経外科：中枢神経系の疾患の治療			担当：塩見 5 テキスト 1、2 資料	
6	神経機能 末梢神経系の疾病と診断・治療が理解できる 症状とその病態生理、検査・診断と治療		講義	担当：西村 1 テキスト 1、2 資料	
7	神経機能 末梢神経系の疾病と診断・治療が理解できる 疾患の理解：病態生理と治療			担当：西村 2 テキスト 1、2 資料	
8	運動機能 筋肉・神経筋接合部の疾病と診断と治療が理解できる 症状とその病態生理、検査・診断と治療、疾患の理解			担当：西村 3 テキスト 1、2 資料	

シラバス 専門基礎分野 疾病と治療Ⅲ (2)

9	骨・関節の疾病と診断・治療が理解できる 構造と機能、症状とその病態生理	講義	担当：元津 1 テキスト 1、3 資料
10	骨・関節の疾病と診断・治療が理解できる 診察と診断の流れ：身体所見と検査の種類		担当：元津 2 テキスト 1、3 資料
11	骨・関節の疾病と診断・治療が理解できる ギプス演習：患者体験、ギプス障害、固定肢位、良肢位	演習 (多目的室)	担当：元津 3 テキスト 1、3 資料
12	骨・関節の疾病と診断・治療が理解できる 治療と処置：保存療法、理学療法、手術療法	講義	担当：元津 4 テキスト 1、3 資料
13	骨・関節の疾病と診断・治療が理解できる 病態生理と治療：神経障害、神経の損傷、脊椎の疾患		担当：元津 5 テキスト 1、3 資料
14	骨・関節の疾病と診断・治療が理解できる 病態生理と治療：内因性運動疾患		担当：元津 6 テキスト 1、3 資料
15	終講試験	筆記	
受講上の留意点 授業を受けるにあたり、主体的に予習・復習に努めましょう 試験配点表で各担当講師の配点を確認しましょう。		評価方法	筆記試験
使用するテキスト 1. 病態生理学 2. 脳・神経 3. 運藤器 (医学書院 e テキスト)			
参考文献 解剖生理学、病理学 (医学書院 e テキスト) からだの地図帳 講談社 病気の地図帳 講談社			

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	作永 瑞希・谷本 俊次 小出 隆・松本 知子 植木佳代子・非常勤講師
科目名	疾病と治療Ⅳ	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
事前学習内容 授業時に講師に指示された内容にとりくむ					
科目全体のねらい・授業目標 人には生命維持のため異物を認証し、記憶し、排除するしくみが備わっている。また感覚器を通して外部からの刺激(情報)を取り入れることで身を守り、情報処理して生活している。そうして個体の健康を守りながら次世代へ子孫を残すという役割を果たすために女性特有の器官がある。本科目では、症状出現から疾病の回復までに必要な、アレルギー・自己免疫、感覚器系(眼・耳鼻・皮膚)、女性生殖器(子宮・卵巣・乳房)にかかわる疾病と治療について学ぶ。					
DPとの 関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関する看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	アレルギー性疾患・自己免疫疾患と治療が理解できる 免疫のしくみ			講義	担当：作永 1 テキスト1、2 資料
2	アレルギー性疾患と治療が理解できる アレルギーのしくみと症状、検査と治療、疾患の理解				担当：作永 2 テキスト1、2 資料
3	自己免疫疾患(膠原病)と治療が理解できる 機序、症状とその病態生理、検査と治療、疾患の理解				担当：作永 3 テキスト1、2 資料
4	感覚器系の眼の疾病と治療が理解できる 構造と機能、症状とその病態生理、診察と診断の流れ、検査			講義	担当：非常勤講師 1 テキスト1、4 資料
5	感覚器系の眼の疾病と治療が理解できる 疾患の理解：病態生理と治療				担当：非常勤講師 2 テキスト1、4 資料
6	感覚器系の耳鼻咽喉の疾病と治療が理解できる 構造と機能、症状とその病態生理、診察と診断の流れ、検査			講義	担当：谷本 1 テキスト1、5 資料
7	感覚器系の耳鼻咽喉の疾病と治療が理解できる 疾患の理解：病態生理と治療				担当：谷本 2 テキスト1、5 資料
8	感覚器系の皮膚の疾病と治療が理解できる 構造と機能、症状とその病態生理、診察、検査と治療・処置			講義	担当：小出 1 テキスト1、3 資料
9	感覚器系の皮膚の疾病と治療が理解できる 疾患の理解：症状と病態生理				担当：小出 2 テキスト1、3 資料
10	女性生殖器の疾病と治療が理解できる 症状と病態生理、診察と診断の流れ、検査と治療・処置 疾患の理解：外陰・膣の疾患			講義	担当：松本 1 テキスト1、6 資料
11	女性生殖器の疾病と治療が理解できる 疾患の理解：臓器別疾患 子宮・卵巣・卵管の疾患				担当：松本 2 テキスト1、6 資料
12	女性生殖器の疾病と治療が理解できる				担当：松本 3

シラバス 専門基礎分野 疾病と治療Ⅳ (2)

	疾患の理解：機能的疾患 月経異常 更年期症状 不妊・ 不育症、感染症		テキスト1、6 資料
13	乳腺の疾病と診断・治療が理解できる 乳腺の疾病と診断過程、検診、手術療法	講義	担当：植木1 テキスト1、6 資料
14	乳腺の疾病と治療が理解できる 乳がんの放射線療法、薬物療法、再発時の治療		担当：植木2 テキスト1、6 資料
15	終講試験	筆記	
受講上の留意点 授業を受けるにあたり、主体的に予習・復習に努めましょう 試験配点表で各担当講師の配点を確認しましょう。		評価方法 筆記試験	
使用するテキスト 1. 病理学 2. アレルギー・膠原病・感染症 3. 皮膚 4. 眼 5. 耳鼻咽喉 6. 女性生殖器 (医学書院 eテキスト)			
参考文献 解剖生理学、病態生理学 (医学書院 eテキスト) からだの地図帳 講談社 病気の地図帳 講談社			

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	谷本 俊次 阿部 結穂
科目名	微生物と感染症	単位数	1単位		
時間数(回数)		30時間(15回)			
事前学習内容					
授業前や授業時に指示された内容に取り組んでおきましょう					
科目全体のねらい・授業目標					
本科目では、まず人間と共存する微生物の正体と役割を知り、臨床微生物と感染症の基本的知識を学ぶ。そして、感染源としての微生物、感染や免疫反応に関する疾患と治療・臨床検査全般について、さらに感染症の世界的な動向についても理解できることをねらう。					
DPとの関連	DP1. 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2. 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3. 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を健康状態やその変化に対して実践することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	微生物と微生物学について理解できる (微生物の性質：常在微生物・発酵食品とプロバイオティクス、環境と微生物、微生物学の対象と目的・歩み：微生物の発見とパストール、コッホ、予防接種の起こり)			講義	テキスト1・2
2	微生物の種類と特徴が理解できる (細菌性質：形態と特徴・培養環境と栄養、細菌の遺伝、分類、常在細菌叢、真菌・原虫性質と形態、ウイルスの性質・特徴・構造と機能・増殖・分類)				
3	感染症とその防御について理解できる (感染症とは？成り立ち～発症・治癒まで、感染源や感染経路)				
4	滅菌と消毒について理解できる (バイオハザードとバイオセーフティ滅菌、滅菌法・消毒)				
5	感染症の治療について理解ができる (化学療法の基礎、抗菌薬、抗ウイルス薬他、薬剤耐性、副作用、薬剤感受性)				
6	感染症の現状と対策について理解ができる (感染症の変遷・現状と問題点、感染症の対策)				
7	感染症の対策について理解ができる (ワクチンと予防接種)				
8	グラム陽性球菌の種類や特徴が理解できる (ブドウ球菌・レンサ球菌 他)				
9	グラム陰性通性桿菌の種類や特徴が理解できる (腸内細菌、ビブリオ属 他)				
10	病原真菌と真菌感染症の種類や特徴が理解できる (深在性真菌症)				
11	病原原虫と病原感染症の種類や特徴が理解できる (混足虫類、鞭毛虫類 他)				
12	病原ウイルスとウイルス感染症の種類や特徴について理解できる (DNAウイルス)				

13	病原ウイルスとウイルス感染症の種類や特徴について理解できる (アデノウイルス、パピローマウイルス、RNAウイルス 他)		
14	病原ウイルスとウイルス感染症の種類や特徴について理解できる (ウイルスの臨床分類)		
15	終講試験		
受講上の留意点 インプットした内容を繰り返しアウトプットする。 口にする、誰かに話す。質問と回答を繰り返す。白紙に書く。 「教科書を読む→問題を解く→忘れていたところを復習」を繰り返す。 以上の学習方法を確実に行いましょう。		評価方法 筆記試験	
使用する教科書 1. 微生物学 2. アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院 e-テキスト)			
参考文献 解剖生理学 (医学書院 e-テキスト)			

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	古川 正信
科目名	薬理学	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容					
授業前や授業時に指示された内容に取り組みましょう					
科目全体のねらい・授業目標					
薬物療法は今日の医療現場では日常的に用いられ、疾病の回復に必要な治療法である。本科目では薬物療法が効果的にかつ安全に行えるよう、薬理学の基礎知識を学び、看護を考える基礎とする。					
DPとの関連	DP1. 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2. 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3. 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を健康状態やその変化に対して実践することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	薬物療法の意義と目的が理解できる (薬理学とは、薬物療法の意義と目的、薬物療法における看護師の役割) 薬理学の基礎知識が理解できる(薬物の作用と機序)			講義	テキスト1
2	薬物動態と影響を与える因子が理解できる (薬物の投与経路、薬物の体内動態 代謝と排泄、薬物血中濃度、薬効の個人差に影響する因子：年齢、性、妊娠、遺伝子) 薬と法律について理解する (医薬品に関する法律、毒薬・劇薬、麻薬・向精神薬・覚せい剤、新薬の開発とヘルシ宣言、医薬品情報の入手、看護業務に必要な薬の知識、薬物使用の有益性と危険性薬)				
3	薬物治療による生体の反応が理解できる (感染症治療の関する基礎)				
4	薬物治療による生体の反応が理解できる (抗がん薬、免疫治療薬)				
5	薬物治療による生体の反応が理解できる (抗アレルギー薬・抗炎症薬、末梢での神経活動に作用する薬物)				
6	薬物治療による生体の反応が理解できる (中枢神経系に作用する薬物)				
7	薬物治療による生体の反応が理解できる (中枢神経系に作用する薬物)				
8	終講試験				
受講上の留意点				評価方法	
薬物療法の基礎的な知識を学びます。知識の定着に向けて学習した内容を疾患と結び付けて理解しておきましょう。				筆記試験	
使用するテキスト					
1. 薬理学(医学書院 e-テキスト)					
参考文献					
臨床薬理学、医療安全、根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院 e-テキスト)					

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	2年次	担当講師	足立 貞子
科目名	栄養学	単位数	1単位		
		時間数（回数）	30時間（15回）		
事前学習内容					
授業前や授業時に指示された内容に取り組んでおく					
科目全体のねらい・授業目標					
生命維持、健全な生命活動、発育・成長に欠かせない栄養素の働きについて理解し、さらには食習慣が誘因となって発症する生活習慣病の予防や傷病者・高齢者に見られる低栄養障害の課題、現代の多様な栄養の補給法、各種の食事療法を学ぶ。一方、食習慣を地域経済や文化的背景に大きな影響を受けるものである。地域特性を吟味した食の援助につなげるために、地域の食文化に根ざす健康の維持と課題についても学ぶ内容とした。					
DPとの関連	DP1. 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2. 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3. 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を健康状態やその変化に対して実践することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	栄養学の歴史と医療制度との関係が理解できる (栄養学の歴史、人間栄養学、食事療法の進歩と医療制度、看護と栄養、チーム医療・地域医療における医療ケア)			講義	テキスト1・2
2	栄養素の種類と働きが理解できる (栄養素の種類と働き：糖質・タンパク質・ビタミン・ミネラル・食物繊維・水)			講義	
3	栄養素の消化吸収が理解できる (食物の消化、栄養素の吸収と体内運搬)			講義	
4	エネルギー代謝が理解できる (食品の栄養、体内エネルギー、エネルギーの消費：基礎代謝・安静時代謝・睡眠時代謝・活動代謝)			講義	
5	食事と食品が理解できる (人間の食事・食文化、食事摂取基準、食品と栄養素)			講義 グループワーク	
6	健康づくりと食生活が理解できる (食生活の変遷と生活習慣病の予防、食生活の改善、食品の安全性と表示)			講義	
7	栄養ケア・ケアマネジメントが理解できる (栄養スクリーニング・アセスメント)			講義	
8	栄養状態の評価・判定が理解できる (ケア計画、ケア・マネジメントの評価)			講義	

9	ライフステージと栄養の特徴が理解できる (各成長発達の栄養ケアとマネジメント)	講義	
10	病院食の種類と意義が理解できる (NST)	講義	
11	代表的な食事療法が理解できる (循環器疾患・低栄養)	講義	
12	代表的な食事療法が理解できる (消化器疾患・栄養代謝疾患)	講義	
13	代表的な食事療法が理解できる (腎疾患・その他)	講義	
14	地域の食文化に根ざす健康課題が理解できる (但馬地域、養父市の食の課題、健康問題)	講義	
15	終講試験		
受講上の留意点 食事療法の土台となります。疾患や食事の持つ意味を結び付けながら学習していきましょう。また、生活習慣にも大きな影響を与えます。社会環境なども結び付けていきましょう。		評価方法 筆記試験 100 点	
使用するテキスト 1. 栄養学 2. 栄養食事療法 (医学書院 e-テキスト)			
参考文献 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病協会 文光堂 腎臓病食品交換表 治療食の基準 第9版 医歯薬出版株式会社 ナーシンググラフィカ② 臨床生化学 人体と構造の機能 メディカ出版 菱沼典子著 第4版 看護形態機能学 生活行動から見るからだ 日本看護協会出版			

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	2年次	担当講師	近藤 直樹 森本 明博
科目名	リハビリテーション論	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容 授業時に講師に指示された内容に取り組む					
科目全体のねらい・授業目標 機能障害から生活を再構築するための日常生活行動や動作のしくみ・運動療法が理解できることをねらう。特に「地域・家庭に帰る」援助につなげるため、身体・心理・社会的な健康回復と健康の保持ができることを含めた内容を学ぶものとする。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	リハビリテーションの概念が理解できる (理念、定義、歴史、リハビリテーションの分野)			講義	担当：近藤 1 テキスト 1 資料
2	リハビリテーションの対象、関連する法律が理解できる (リハビリテーションを必要とする人、ICD, ICF, ICIDH、法律)			講義	担当：近藤 2 テキスト 1 資料
3	リハビリテーション医療の役割について理解できる (経過、発達段階別にみる看護)			講義	担当：近藤 3 テキスト 1 資料
4	リハビリテーションチームにおける看護師の役割が理解できる(看護を展開するための基盤、リハビリテーションを阻害・促進する要因、他職種連携)			講義	担当：森本 1 テキスト 1 資料
5	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護が理解できる (運動機能障害、排泄機能障害、呼吸機能障害、事例(下肢切断))			講義	担当：近藤 4 テキスト 1 資料
6	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護が理解できる (摂食機能障害、言語障害、高次脳機能障害、事例(心不全))			講義	担当：森本 2 テキスト 1 資料
7	地域リハビリテーション看護を実践するためのアセスメントについて理解できる (地域・がん・災害リハビリテーション、リハビリ機器の活用)			講義	担当：森本 3 テキスト 1 資料
8	終講試験				
受講上の留意点 教科書を基本とした内容で、学習を進めていきます。教科書の各章の目標、授業内で示すワークを活用しましょう。				評価方法 筆記試験	
使用するテキスト 1. リハビリテーション看護(医学書院 eテキスト)					
参考文献 落合慈之監修 リハビリテーションビジュアルブック 学研メディカル秀潤社 看護形態機能学(医書.jp)					

授業概要

分野	専門基礎	履修年次	1年次	担当講師	杉垣ひとみ
科目名	看護につながる疾病論	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		

事前学習内容

授業テーマのワークに取り組む。TBL学習では、心不全の病態と治療・看護について事前学習しておく。

科目全体のねらい・授業目標

自ら看護を考えるための基礎知識の活用方法について学ぶ。学習してきた身体の構造と機能、疾病と治療の知識を使い患者の状態をアセスメントできるための能力を養っていく。学習活動を通して、学習方法を習得でき、主体的な学習につながることをめざす。

DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を 身体的・精神的・社会的側面 から総合的に理解することができる
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関する 看護を健康状態やその変化に応じて実践することができる

授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	備考
1	呼吸器系・循環器系の構造が理解できる	講義・協同学習	事前課題テキスト1.3.4.5.7
2	消化器系の構造が理解できる	講義・協同学習	テキスト1.3.4.5.7
3	健康障害により生じる症候が理解できる	講義 ポストテスト	テキスト2.6
4	咳嗽と喀痰のメカニズムが理解できる①	講義・協同学習	テキスト1～7 ワーク1
5	咳嗽と喀痰のメカニズムが理解できる②	協同学習 ポストテスト	テキスト1～7 病態関連図
6	浮腫のメカニズムが理解できる①	講義・協同学習	テキスト1～7 ワーク2
7	浮腫のメカニズムが理解できる②	協同学習 ポストテスト	テキスト1～7 病態関連図
8	乏尿・無尿・頻尿・多尿のメカニズムが理解できる①	協同学習 ポストテスト	テキスト1～7 ワーク3 病態関連図
9	肥満・痩せのメカニズムが理解できる	協同学習	テキスト1～7 ワーク4 病態関連図
10	感覚障害のメカニズムが理解できる	協同学習	テキスト1～7 ワーク5 病態関連図
11	意識障害のメカニズムが理解できる	協同学習	テキスト1～7 ワーク6 病態関連図
12	心不全事例に必要な知識を学習し、心不全患者の看護について捉える。チームで協力し根拠を踏まえて解答を導き出せる。 心不全事例① 知識確認	TBL	テキスト1～7 参考文献 資料
13	心不全事例② 心不全の病態・看護	グループワーク	病態関連図
14	心不全事例③ 演習問題	TBL	テキスト1～7 参考文献
15	心不全事例④ 演習問題	TBL	テキスト1～7 参考文献

受講上の留意点

知識を活用し考えることを目指す授業です。わからないことを調べて授業で活用し学習方法を身につけましょう。ポートフォリオを作成し学習に活用するので授業時に持参してください。また、その成果を評価に加えますが、指定期日を守り提出したものを評価します。ポストテストは、欠席の場合0点とします。グループ学習が主体のため積極的にグループ活動に参加してください。

評価方法

課題の取り組み	20点
学習態度	10点
ポストテスト	10点×4回
TBL(個人得点・チーム得点・ピア評価)	30点

使用するテキスト

1. 解剖生理学 2. 病態生理学 3. 基礎看護技術Ⅰ 4. 基礎看護技術Ⅱ (医学書院 eテキスト)
5. 楽しく学ぶ看護につながる解剖生理学 6. 看護過程に沿った対応看護 (医書.jp)

7. 生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖生理【第3版】 医学映像教育センター

参考文献

看護がみえるフィジカルアセスメント メディックメディア

成人看護学呼吸器・循環器・消化器・内分泌代謝・脳神経・腎泌尿器 (医学書院 eテキスト)

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	済 昭道
科目名	医療概論	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容 授業時に講師に指示された内容に取り組む					
科目全体のねらい・授業目標 医療は社会の変化や科学技術の進歩とともに発展してきた。本科目では、保健医療を取り巻く社会の動向を踏まえ、医療の現状と課題について理解する。さらに生殖補助医療や脳死・臓器移植など現代医療に関わる諸問題を通して、生命の尊厳や倫理、患者の権利について考える。これらの学びを通して、人の心を尊重した医療のあり方と医療従事者としての役割について主体的に考えることをねらいとする。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP3 健康の保持・増進・疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力をみにつけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	医学・医療のあゆみと現代医療の本質が理解できる(生命を尊ぶ心、ヘルスリテラシー)			講義	テキスト1 資料
2	わが国の医療供給体制とそこで働く人々が理解できる(地域包括ケア、チーム医療、医療システム)			講義	テキスト1 資料
3	医療の進歩に伴う医療倫理の変遷が理解できる(生命倫理、医療安全、ポリファーマシー)			講義	テキスト1 資料
4	患者の権利とインフォームドコンセントの必要性が理解できる(自己決定権)			講義	テキスト1 資料
5	病状告知と医師の責務が理解できる			講義	テキスト1 資料
6	脳死と臓器移植の現状から倫理について考えることができる			講義	テキスト1 資料
7	さまざまな死のあり方が理解でき、死と医療について考えることができる(認知症、緩和ケア)			講義	テキスト1 資料
8	終講試験				テキスト1 資料
受講上の留意点 医療を取り巻く社会の動きや課題に関心を持ち、自分の考えを大切にしながら学んでください。多様な価値観に触れ、医療者としてのあり方を主体的に考えていきましょう。				評価方法 筆記試験	
使用するテキスト 1. 医療概論(医学書院 eテキスト)					
参考文献 看護関係法令 看護学概論(医学書院 eテキスト) 看護学基礎テキスト 第3巻 社会の中の看護 日本看護協会出版会 田畑邦治他編 哲学—看護と人間に向かう哲学 ニューヴェル・ヒロカワ					

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	2年次	担当講師	田所昌也 渡部雅博 細川友美 小谷純子
科目名	公衆衛生学	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		

事前学習内容

授業時に講師に指示された内容に取り組む

科目全体のねらい・授業目標

公衆衛生は社会福祉、社会保障とともに人々の健康と生活を支える社会的な仕組みであり、地域社会の組織的な取り組みにより疾病予防や健康増進を図る学問である。本科目では、個人のみならず地域・職域・社会全体の視点から健康を捉え、環境・社会と人間の健康の相互関係、および健康問題への予防的アプローチについて理解することをねらいとする。

DPとの関連

DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる

DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる

授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	備考
1	公衆衛生の概念を理解する (世界日本の歴史、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション)	講義	担当：田所1 テキスト1 資料
2	公衆衛生のしくみを理解する (国・地方・住民レベルの仕組み、法律と施策)	講義	担当：田所2 テキスト1 資料
3	公衆衛生における生活環境と問題対策を理解する (環境と健康、学校と健康、職場と健康)	講義	担当：田所3 テキスト1 資料
4	集団の健康を捉えるための手法を理解する (疫学・保健統計)	講義	担当：田所4 テキスト1 資料
5	公衆衛生における感染症と対策を理解する (感染の成立要件、感染経路、感染症法)	講義	担当：渡部1 テキスト1 資料
6	地域保健活動の実際について理解する (成人保健、生活習慣病)	講義	担当：細川1 テキスト1 資料
7	地域保健活動の実際について理解する (母子保健、高齢者保健、歯科保健)	講義	担当：小谷1 テキスト1 資料
8	終講試験		

受講上の留意点

日常生活と関連づけて、身近な問題として捉えましょう。主体的に考え、関心を持ちながら学習に取り組みましょう。

評価方法

筆記試験

使用するテキスト

1. 公衆衛生 (医学書院 eテキスト)

参考文献

看護関係法令 (医学書院 eテキスト)

厚生指針 増刊 国民衛生の動向 厚生労働統計協会

看護六法

川野雅資監修 看護学実践 science nursing

授業概要

分野	専門分野	履修年次	1 年次	担当講師	井上 清美
科目名	健康支援と保健活動	単位数	1 単位		
		時間数 (回数)	15 時間 (8 回)		
事前学習内容 授業時に講師より指示された内容に取り組む。					
科目全体のねらい・授業目標					
地域社会と健康の関連性と地域の現状に応じた健康支援活動の実際を学び、学生自らも身近に健康支援を受けて生活をしていることを実感できると共に、但馬地域における健康支援活動の実際を学ぶ。					
DP との関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	地域保健活動の理念と仕組みを理解することができる (保健活動/公衆衛生・地域看護)			講義	テキスト 1.2
2	地域保健活動の理念と仕組みを理解することができる (WHO・プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーション・日本国憲法健康日本 21・健康増進法)			講義	テキスト 1.2
3	地域を対象とする公衆衛生看護活動(保健活動)の主要な概念について、地域の看護職である保健師の活動から理解することができる			講義	テキスト 1.2
4	(地域保健活動の構造と展開・健康危機管理)				
5	現代の社会環境の特徴、人々の健康の捉え方、直面する健康課題について検討し、今後の地域保健活動の方法性を理解することができる (産業保健活動・労働安全衛生法)			講義	テキスト 1.2
6	看護職が住民や関係者・医療関係とともに協働し、健康づくり、地域づくりに参加することの重要性を理解することができる			講義	テキスト 1.2
7	(ソーシャルキャピタル・目指す地域包括ケアと保健活動・兵庫県地域医療構想)				
8	終講試験				
受講上の留意点				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> 事前学習を十分におこない、授業に臨む。 地域の暮らしや自己の生活をイメージしながら、学習を進める。 				筆記試験	
使用するテキスト					
1. 公衆衛生 (医学書院 e テキスト)					
2. 厚生 の 指標 増刊 国民衛生の動向 厚生労働統計協会					
参考文献					
社会保障・社会福祉 看護関係法令 (医学書院 e テキスト)					
看護六法 新日本法規					
新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度① 現代医療論 メヂカルフレンド社					

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	2年次	担当講師	井土 睦雄
科目名	社会福祉	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容					
授業時に講師に指示された内容に取り組む					
科目全体のねらい・授業目標					
社会保障・社会福祉制度や政策について学び、医療と福祉の連携について理解する。そして、看護専門職として、医療サービス利用者への看護を通じて、社会福祉関係支援者と共に、チームアプローチできる人材を育成する。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	現代社会における社会福祉・社会保障の意義が理解できる (理念、法律と行政)		講義	テキスト1 資料	
2	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向が理解できる (個人、家族、地域社会等の連動性)		講義	テキスト1 資料	
3	医療保障制度について理解できる (医療保健の目的、内容、役割)		講義	テキスト1 資料	
4	介護保険制度について理解できる (介護保険の目的、内容、役割)		講義	テキスト1 資料	
5	所得保障と公的扶助について理解できる (生活保護制度、低所得者対策)		講義	テキスト1 資料	
6	社会福祉分野とサービスが理解できる (高齢者、障害者、児童福祉制度)		講義	テキスト1 資料	
7	社会福祉実践と医療・看護の連携について理解できる(看護職の社会的役と責任)		講義	テキスト1 資料	
8	終講試験				
受講上の留意点			評価方法		
授業は2コマ続きで行います。 分からないことは授業内で確認するなど、積極的に取り組みましょう。			筆記試験		
使用するテキスト					
1. 社会保障・社会福祉(医学書院 eテキスト)					
参考文献					
井村圭壮他 社会福祉の制度と課題 学文社					

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	2年次	担当講師	星 雅文
科目名	関係法規	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容 授業時に講師より指示された内容に取り組む。					
科目全体のねらい・授業目標 国民の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行できるように社会における法、人権について理解し、医療・福祉分野に関連する関係法令を学ぶ。					
DPとの関連	DP4 人間の生命と人権を尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探求し続けることができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	社会における法の概念を理解することができる (法と種類・衛生法の分類・厚生行政の仕組み)			講義	テキスト1
2 3 4	医療機関と関係法令、および医療従事者の職務の機能と役割を理解することができる (医事法、医師法と医療法・健康保険法、介護保険法) (診療放射線技師法・理学療法士および作業療法士法・言語聴覚士法・救命救急士法・歯科医士法、歯科衛生士法) (社会福祉法・生活保護法・社会福祉士および介護福祉士法福祉法)			講義	テキスト1
5	福祉分野に従事する職務の機能と役割を理解することができる(福祉法)			講義	テキスト1
6	薬務法の概要と法令の目的・定義を理解することができる (薬剤師法・薬機法)			講義	テキスト1
7	環境保全の必要性和基本理念が理解でき看護との関連を考えることができる(環境基本法・廃棄物の処理及び清掃に関する法律)			講義	テキスト1
8	終講試験				
受講上の留意点 ・事前学習を十分に行い、授業に臨む。				評価方法 筆記試験	
使用する教科書 1. 看護関係法令(医学書院 eテキスト)					
参考文献 川野雅資監修 看護学実践 science of nursing 地域看護学 ピラールプレス 社会保障・社会福祉 在宅・在宅看護の基盤(医学書院 eテキスト) 看護六法 新日本法規					

授業概要

分野	専門基礎分野	履修年次	3年次	担当講師	植木佳代子 非常勤講師
科目名	看護と法	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容 授業時に講師より指示された内容に取り組む					
科目全体のねらい・授業目標 看護の質を向上させるための保健師助産師看護師法、ならびに看護職者がキャリア形成していく過程で関係する法規を学び、看護が果たす社会的責任を考える。					
DPとの関連	DP4 人間の生命と人権と尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探索し続けることができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1 2 3	保健師助産師看護師法について理解することができる (専門職の定義・保健師助産師看護師法と関連法) (保助看法の総則・看護職としての成長プロセスと保助看法の適応) (看護記録の法的根拠)			講義	担当：植木 1.2.3 テキスト 1.2
4 5	看護師の法的責任と倫理について理解することができる (医事法・保健衛生法・薬務法・社会保険法・福祉法・労働法・環境法)			講義	担当：植木 4.5 テキスト 1.2
6 7	看護師等の人材確保の促進、労働法等の理解ができる。 看護職が働き続けられる社会基盤・整備について理解ができる			講義	担当：非常勤講師 テキスト 1.2
8	終講試験				
受講上の留意点 ・社会の動向を調べるなど、事前学習を十分に行い授業に臨む。 ・非常勤講師の講義はレポート提出あり。				評価方法 筆記試験(90点) レポート(10点)	
使用する教科書 1. 社会保障・社会福祉制度 2. 看護関係法令(医学書院 eテキスト)					
参考文献 看護者の基本的責務－基本法と倫理 日本看護協会出版会 基礎看護学Ⅰ 看護学概論(医学書院 eテキスト)					